

大会名 Competition	第23回 能代カップ 高校選抜バスケットボール大会
NO. M-108	Year Month Day Time 2010 年 5 月 4 日 13 : 35
場 所 Place	能代市総合体育館



チーム A		チーム B															
興南高校	<table border="1"> <tr><td>21</td><td>1st</td><td>17</td></tr> <tr><td>20</td><td>2nd</td><td>16</td></tr> <tr><td>21</td><td>3rd</td><td>25</td></tr> <tr><td>23</td><td>4th</td><td>23</td></tr> <tr><td colspan="3">OT</td></tr> </table>	21	1st	17	20	2nd	16	21	3rd	25	23	4th	23	OT			市立船橋
21	1st	17															
20	2nd	16															
21	3rd	25															
23	4th	23															
OT																	
85 ○		81 ●															

主審:Referee 北沢 岳夫 福島県
副審:Umpire 信太 悦美 秋田県
テーブル・オフィシャル:Table officials 能代北

No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F	No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F
4	×	比嘉 卓斗	CAP	10	1	3	1	4	4	×	平良 彰大	CAP	13	0	5	3	4
5		三宅 力		-	-	-	-	0	5	×	山田 侑樹		14	1	5	1	4
6	×	伊集 貴也		30	5	4	7	3	6	×	出羽 峻一		20	0	8	4	5
7	×	平得 文士		5	0	2	1	3	7	×	濱田 拓也		9	1	2	2	5
8	/	渡口 崇秋		7	0	3	1	2	8	/	貝沼 雄介		9	1	2	2	3
9		友寄 邦人		-	-	-	-	0	9	/	中島 卓也		8	2	1	0	2
10		屋我 貴秀		-	-	-	-	0	10		根本 奨		-	-	-	-	0
11	×	上原 大輝		16	2	4	2	3	11		小川 真司		-	-	-	-	0
12		寄川 龍功		-	-	-	-	0	12		佐藤 豪		-	-	-	-	0
13	×	嘉数 潤也		12	0	5	2	4	13		佐久間 大翔		-	-	-	-	0
14	/	鈴木 裕也		5	0	1	3	1	14		清水 礼		-	-	-	-	0
15		仲村 兼太		-	-	-	-	0	15		品川 剛		-	-	-	-	0
16		島袋 大輔		-	-	-	-	0	16	/	西鶴 大輔		5	1	0	2	0
17		仲西 智彦		-	-	-	-	0	17	×	古牧 昌也		3	1	0	0	2
18	/	満島 光太郎		0	0	0	0	1	18	/	石井 竜也		0	0	0	0	0
コーチ		井上 公男							コーチ		近藤 義行						
アコーチ		狩俣 暢史							アコーチ		井上 知徳						
合計				85	8	22	17	21	合計				81	7	23	14	25

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3P* イントシュート 2P:2P* イントシュート FT:フリースロー F:ファウル

1Q、興南、市立船橋ともにマンツーマンディフェンスで試合を開始する。立ち上がり興南は#4比嘉のドライブから#13嘉数のゴール下シュートで先制する。興南は足がよく動いており、ドライブを基軸としながら果敢にリングに飛び込んでいく。一方の市立船橋は#6出羽のジャンプショットや#9中島の3Pなどで応戦するが、興南の足を使った守りになかなかノーマークを作ることが出来ない。結局21-17と興南が4点をリードして1Qを終了する。

2Q、1Q同様興南は#14鈴木のステップインなどで点差を離しにかかる。市立船橋は8点差にまで広がったところで早々にタイムアウトを取り、3-2ゾーンに変更する。すると興南はミス連発し、市立船橋に流れが行き始めたかに見えたが、市立船橋はノーマークシュートをなかなか決めることが出来ず、逆に#6伊集の連続3Pで突き放されてしまう。結局、市立船橋は終了間際に#8貝沼の3Pなどで反撃するものの興南が差を広げて41-33で前半を終了する。

3Qに入っても興南の動きは衰えることなく、市立船橋はシュートチャンスを作ることが出来ない。開始わずか1分半で船橋は再びタイムアウトを取り、体制の立て直しを図る。すると市立船橋も積極的にドライブを仕掛けるようになり、#6出羽のステップインシュートや#17古牧の3Pなど、攻撃に幅が出てくる。対する興南は#6伊集#11上原の3Pで応酬し船橋に主導権を握らせまいとする。その後は一進一退の攻防が続き、62-58の興南4点リードで終了。

4Q、序盤興南は#6伊集の3P、#4比嘉のジャンプシュートなど、正確なシュートで点差を引き離す。市立船橋は#6出羽のゴール下シュート、#4平良のドライブインで対抗する。中盤、市立船橋はプレスディフェンスがよく機能し、興南はシュートすることが出来ずに攻めあぐむ。市立船橋は#7濱田の3Pで1点差とすると、#4平良のステップインでついに73-73の同点に追いつく。白熱の展開の末、残り35秒で80-78興南ボール。両校ともにファウルが出来ないという状況下であったが、市立船橋はファウルがかさんでしまう。結局フリースローを確実に決めた興南が追いつがる市立船橋を振り切り、85-81で興南高校が今大会初勝利を納めた。